高崎学検定講座資料

令和３年９月１８日

高崎市市民活動センター・ソシアス

幕末の動乱下仁田戦争　―日本最後の鎧兜による戦―

下仁田戦役戦没者遺族会　代表　　堤　克政

下仁田戦争とは

元治元年（1864）11 月 16 日に、高崎藩が幕府の追討命令を受け、甘楽郡下小坂村（現下仁田町下小坂）で水戸浮浪之徒と戦闘に及んだ戦役。後に「下仁田戦争」と称されるようになった。

高崎藩…治安維持部隊　賊徒の逮捕　　天狗党…強盗反乱集団「浮浪之徒」

天狗党の目的　　天皇への攘夷の仲介を禁裏守衛総督一橋慶喜に　　京都を目指す（西上）

高崎藩：死者 36 名　負傷者 11 名　　天狗党：戦場死者 12 名　信州へ逃亡中死者約 80 名

１．水戸浮浪之徒・天狗党

（１）天狗党を生んだ水戸藩

ア．徳川御三家

常陸源氏嫡流佐竹氏が秋田へ領地替え→家康五男信吉→十男頼宣→十一男頼房

水戸藩…正三位権中納言⇔尾張・紀州両藩…従二位権大納言、将軍後継可

寛政 10 年（1634）駿河徳川家断絶　　13 年水戸家に徳川賜姓　　5 代将軍綱吉の頃御三家

イ．定府・副将軍（俗称）

頼房（1603 年 9 月生）

3 代将軍家光と 1 歳違い　叔父甥

話し相手　定府　将軍留守居役　副将軍

長子頼重は次男扱い→高松藩主

三男光圀を継嗣

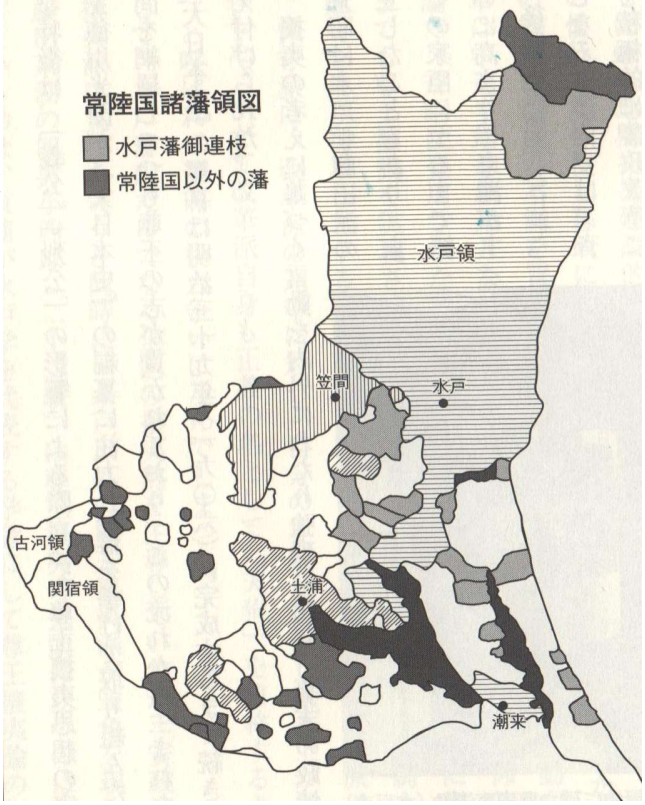
光圀（1628 年 7 月生）

頼重の長子綱條を 3 代藩主

光圀の長子頼常を高松藩 2 代藩主

定府の問題点

二元藩政　家臣間の確執　経済負担



ウ．領地が狭小

常陸国約 30 万石　同国 3 分の 1

尾張藩（尾張 70 万＋美濃 10 万＋α）

紀州藩（紀伊 37 万＋伊勢 18 万＋α）

元禄 14 年（1701）表高 35 万石に　　内高との差→格式維持・藩財政窮乏

エ．尊皇攘夷の大本山

『大日本史』（神武天皇～後小松天皇の治世）編纂　　光圀編纂開始　　明治 39 年完成

斉昭中心の後期水戸学　　藤田東湖主張の尊皇攘夷思想が根幹　　藩外に影響

（２）天狗党出現の背景

ア．水戸藩内におけるお家騒動

8 代藩主斉脩　　無継嗣＋病弱→後継者問題

譜代門閥層　斉脩夫人（11 代将軍家斉八女峯姫）の筋　御三卿清水徳川斉彊の擁立

峯姫輿入れ時　化粧料 1 万両　幕府からの拝借金 9 万 2 千両棒引き

軽格下士層　斉脩実弟斉昭を養子　各方面に陳情し成功

イ．徳川斉昭が 9 代藩主就任

天保の改革遂行　　藤田東湖を起用→尊皇攘夷派台頭

東湖の影響　　下級藩士起用　　門閥派と確執が激化

門閥派：改革派の成り上り者を「天狗」　　改革派：自ら義勇・正義のかえ名「天狗」

藩領内に庶民教育機関「郷校」　15 校　　尊皇攘夷論

（３）天狗党の構図

広義の天狗党　　主義・目的・構成員身分・立場　　多種多様　　水戸以外も

激派　田中愿蔵中心（野口郷校出身　田中勢）　後に天狗党除名

岩谷敬一郎中心（潮来郷校）

竹内百太郎中心（小川郷校）

藤田小四郎・田丸稲之衛門中心 → 筑波山挙兵（筑波勢）

鎮派　武田耕雲斎・山国兵部中心（武田勢）　　大発勢降伏

大発勢・執政榊原新左衛門勢力 → 那珂湊の戦い

常陸北部の大子に集結

狭義の天狗党…首領武田耕雲斎、副将田丸・藤田

（４）天狗勢のねらい

幕府の徳川斉昭及び攘夷決行への対応不満　　攘夷実行を督促

藩内・幕府　　攘夷実行入れず　　長州など他藩の行動活発にあせり

「攘夷の大本山」たる自意識　　幕府に攘夷決行を促す旗頭へ→横浜鎖港

（５）掠奪殺人など暴徒化

無収入の浮浪之徒　　財源確保（押し借り、金品強要）

乱暴狼藉（人質・放火・殺人）　　田中勢を中心に暴徒化　「愿蔵火事」

常州各地から野州・上州へ　　上州の蚕糸業農家を狙う

桐生 4,675 両　伊勢崎 1,925 両　渋川付近 4,800 両　富岡 850 両　下仁田南牧 990 両

２．水戸藩と幕府の動き

（１）天狗勢に理解を示す水戸一門

水戸藩御連枝　本家に嗣子不在の場合継嗣を出す

讃岐高松藩（高松市）磐城守山藩（郡山市）常陸府中藩（石岡市）常陸宍戸藩（笠間市）

継嗣の実績なし　　天狗党の主張に賛同

徳川斉昭の子女 22 男 15 女（9 男 8 女夭逝）　養子・輿入れ

鳥取藩池田慶徳と岡山藩池田茂政　　横浜鎖港支持　　天狗党の屯集擁護

水戸藩主徳川斉昭の子息の養子先

石高：万石　年・歳は養子入り年と歳

続柄	氏　名	養子先	養子入り				続柄	嫁ぎ先
		藩名	石高	年	歳	理　由		
5男	池田慶徳	鳥取	32.5	1850	13	11代慶栄無嗣急死、末期養子	長女	宇和島藩主
7男	徳川慶喜	一橋	10.0	1847	10	12代将軍の意向	3女	助川城主
8男	松平直侯	川越	17.0	1854	15	藩主15～22歳、養子直克に移譲	6女	盛岡藩主
9男	池田茂政	忍	10.0	1849	10	安政の大獄を恐れ忍藩養子廃嫡	9女	仙台藩主
		岡山	31.5	1864	24	8代慶政が尊王派の勧めで移譲	11女	有栖川宮
10男	松平武總	浜田	6.1	1847	5	3代武成無嗣、末期養子	12女	島原藩主
11男	喜連川縄氏	喜連川	0.5	1862	18	10代寅氏急死、末期養子	15女	鹿奴藩主
16男	松平忠和	島原	6.5	1862	14	7代忠愛無嗣、末期養子		
17男	土屋挙直	土浦	9.5	1868	16	9代寅直無嗣、新政府命で隠居		
18男	徳川昭武	清水	10.0	1866	13	1869年水戸藩相続		
19男	松平喜徳	会津	23.0	1867	12	9代容保が処分		
22男	松平頼之	守山	2.0	1869	11	6代頼升が隠居		

（２）前例のない難事連続の幕閣

ア．文久 2 年～元治元年の老中

目まぐるしい交代　　初めて老中輩出藩

従来の地域外（東北・北信越・中国・九州）

養子の藩主が多数

水野・板倉体制

水野忠精　在任 4 年 4 か月

卓越した情報収集力

大奥に通じた強固な閨閥

板倉勝静　在任 5 年 3 か月

山田方谷起用　藩財政再建

松平定信の孫

人材不足　有能者は権力抗争に沈む

文久2年から元治元年の老中就退任

就　任				退　任		
年	月	大名名	藩名	月	大名名	藩名
文久2	1	井上正直	浜松			
	3	水野忠精	山形	3	本多忠民	岡崎
	3	板倉勝静	松山			
	5	脇坂安宅	竜野	9	脇坂安宅	竜野
	11	小笠原長行	唐津			
文久3	4	太田資始	掛川	5	太田資始	掛川
	6	酒井忠績	姫路	6	小笠原長行	唐津
	7	有馬道純	丸岡			
	9	牧野忠恭	長岡	9	松平信義	亀山
元治元	4	稲葉正邦	淀	4	有馬道純	丸岡
	6	阿部正外	白河	6	酒井忠績	姫路
	6	諏訪忠誠	高島	6	板倉勝静	松山
	8	本庄宗秀	宮津	7	井上正直	浜松
	10	本多忠民	岡崎			

＊松山は備中松山　亀山は丹波亀山

イ．文久２年～元治元年の主な出来事

攘夷の実力行使：生麦事件　井上ケ谷事件　第二次東善寺事件

薩英戦争　四国連合艦隊下関砲撃

政治体制の変化：文久の改革　　将軍家茂上洛　　八月十八日の政変

対長州藩関連　：池田屋事件　　禁門の変　　長州征討

３．浮浪之徒に対する幕府の対応

（１）乱暴狼藉の頻発拡大に文書通達のみ

水戸藩主慶篤に江戸留守居役として治安維持⇔幕府の攘夷（横浜鎖港）が先

諸藩への命令　　水戸藩内攘夷論派の内乱　　近隣住民など災難　　騒乱分子鎮静化

常州：土浦 9.5・府中２・谷田部 1.6・下妻１・下館１・宍戸１　＊数字は万石

野州：宇都宮 6.7・壬生３・足利 1.1　　下総：結城 1.8　　武蔵：川越 17

高崎藩と笠間藩へ　浮浪の徒追討命令

高崎藩：幕府が追討軍命令　　総督辞退　水戸は将軍連枝　水戸藩主就任すべき

年寄長坂又左衛門隊・年寄田中助之進隊　　野州小山方面に出陣

３週間後、太平山集結の賊徒鎮静化→一旦帰郷

（２）第一次追討「下妻の戦い」

追討命令の出た藩

土浦・府中・谷田部・下妻・下館

宇都宮・壬生・足利・結城

追討命令の無い藩

川越・古河・笠間

追討軍総括田沼玄番頭意尊

相良藩１万石　若年寄就任３年

当時若年寄６名　就任後数ヵ月

幕府追討軍　　水戸藩門閥派加勢

高道祖（下妻市高道祖）で交戦

追討軍勝利→天狗党夜襲→追討軍敗走

到着間もない高崎兵站部隊混乱敗走

下妻一帯が戦火　　下妻藩が陣屋に放火

常州・野州・総州の諸藩

４．那珂湊の戦い

（１）水戸藩の事情

深刻な内紛　　藩主が収拾すべき　　江戸離れず→藩主名代に宍戸藩主松平頼徳

執政榊原新左衛門ら頼徳に随行　　大発勢

武田勢・筑波勢が水戸へ進行中　　大発勢に合流

（２）複雑な構図

門閥派・諸生党・市川笑左衛門ら　　水戸藩主名代松平頼徳の水戸城入城阻止

頼徳と大発勢　　入城ならず那珂湊へ　　意に添わず戦闘

頼徳　　幕府軍へ弁明に出向く←市川勢は総括田沼に頼徳が天狗勢と一体と　拘束切腹

戦いの構図　　幕府軍＋門閥派・執政市川勢⇔藩主名代と大発勢執政榊原＋天狗勢

（３）第二次追討「那珂湊の戦い」

幕府軍（元治元年 6 月創設）　歩兵・騎兵・砲兵 3000 人余　　結成後初の出陣

歩兵二大隊、騎兵若干、砲兵若干　　11 藩の寄集め軍

総括・若年寄田沼玄番頭と次席・兵糧奉行大岡兵庫頭は大名　　他は旗本

大発勢　敗北→投降→諸藩へお預け→切腹他処罰

藤田小四郎ら　大子に集結→天狗党結成→西上

天狗党追討軍参陣藩と藩主の年齢

藩名	石高	参戦時の藩主		
	(万石)	氏名	年齢	在任
関宿	4.8	久世広文	12	5
佐倉	11.0	堀田正倫	12	5
平	4.0	安藤信勇	14	0
棚倉	6.0	松平康恭	15	2
高崎	8.2	松平輝照	15	3
宇都宮	7.7	戸田忠明	17	9
壬生	3.0	鳥居忠宝	19	7
忍	10.0	松平忠識	24	1
二本松	10.0	丹羽長国	30	6
新発田	10.0	溝口通溥	45	26
福島	3.0	板倉勝顕	50	30

（４）何故招集され、何故招集されなかった

高崎藩は何故遠方なのに招集されたか

ア．招集藩

藩主が若年　殆どが十代

先代が幕閣として失脚（関宿・平・佐倉）

藩内に問題あり（宇都宮・忍・棚倉）

イ．非招集藩

藩主　三、四十代

攘夷に理解　水戸と縁戚　幕閣と対立（土浦・川越）

忖度？　笠間・古河

主な非参陣藩と藩主の年齢

古河	8.0	土井利則	43	8
土浦	9.5	土屋寅直	44	26
笠間	8.0	牧野貞直	33	13
川越	17.0	松平直克	24	2

（５）天狗党西上に対する追討命令後の対応

天狗党の扱い「常野州脱走の賊徒」　　那珂湊での戦闘相手は幕府軍

幕府追討命令　　若年寄田沼意尊から発状　　大名への指示は老中から

上野国西上途上にある諸藩へ 11 月 12・13 日付

天狗党一行　　11 月 11 日には新田郡太田町（太田市）に進出

命令間に合わず　舘林藩：一行既に通過　　伊勢崎藩：発令日に一行遭遇

命令以降に出陣可能ながら出陣せず

川越藩　上州前橋他各地に飛地　100 年前に前橋から川越→前橋陣屋

吉井藩・小幡藩・七日市藩　　小規模藩で兵力弱小

安中藩　　碓氷関所担当を理由

５．追討軍高崎藩

（１）譜代老中格

井伊直政：徳川家康の最も信頼する武将・外交官　12 万石

酒井家次・松平（戸田）康長・松平（藤井）信吉：各 5 万石　松平一族

安藤重信：5 万石　2 代将軍秀忠の守役　　老中→高崎城が老中格の城に

松平（大河内）輝貞：7.2 万石　松平信綱の孫　5 代将軍綱吉・8 代将軍吉宗の信頼　老中格

間部詮房：5 万石　6 代将軍家宣・7 代将軍家継の側用人

（２）大河内松平家

源頼政の孫大河内源太顕綱の後裔

三河国額田郡大河内郷（愛知県岡崎市大平町付近）出身

11 代信貞…家康仕官　　12 代秀綱…関東領代官　　13 代久綱…大多喜大河内家の祖

正綱：秀綱次男　新田源氏末流松平右衛門大夫親綱養子　長沢松平　家康側近中の側近

信綱：伊豆守家祖　3 代将軍家光の最側近　“知恵伊豆”　老中　川越城主

信興：右京大夫家祖　信綱五男　独立分家

輝貞：信綱の孫　叔父信興（土浦藩主）の養子

輝照（輝聲）:「自分の家来は小者に至るまで徳川家と運命を共にする」

６．両軍の状況

（１）天狗党の戦力

下仁田戦争時の総員 925 人

高崎藩の「戦後報告御用番本多美濃守様へ御届」内訳

敵兵 34 人討取（下仁田戦死 5 人、中小坂戦死 7 人、重傷者 22 人）

重傷者は上信国境の内山峠にて手当中に死亡　死体は同所にて焼却

信州平賀村（佐久市平賀）名主報告　塩名田宿泊者 845 人（下仁田から 80 人減）

（２）高崎藩の戦力

高崎藩主力　常州那珂湊に転戦中

将たる年寄田中正精・長坂忠恕、番頭深井資信　　幕府追討軍に加わり出張中

家老宮部兵右衛門　高崎在 600 人を四つに分け　一隊を城の守り、三隊の賊徒討伐軍編成

一番手：109 人

小頭武者会田孫之進（者頭 150 石）　者頭関八之進（使役 160 石）

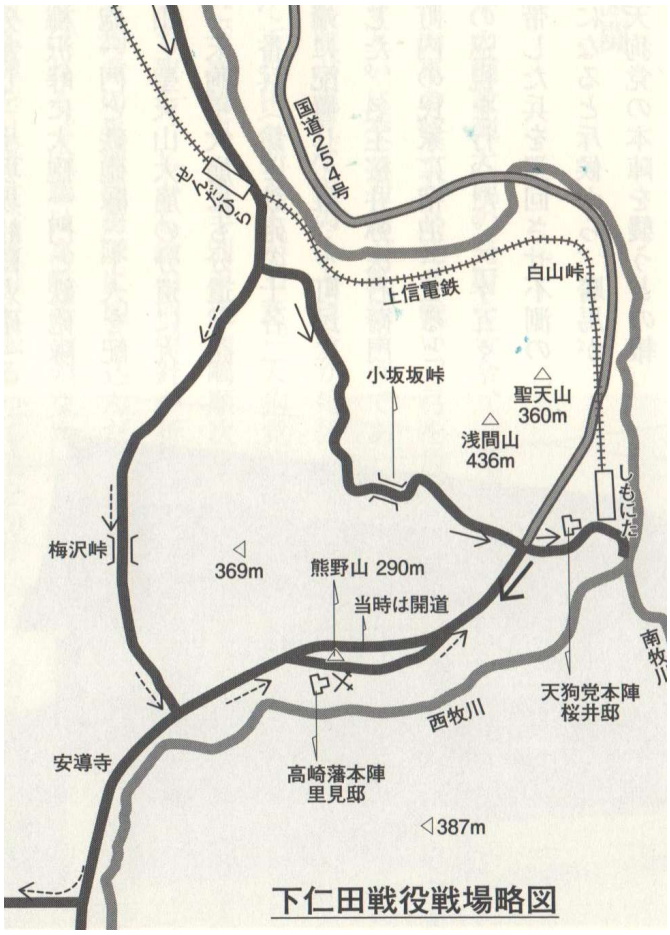
目付兼徒士頭神田市左衛門（馬廻格 50 石）　使番堤金之丞（目附 10 人扶持）
働武者 25 人　大砲方 13 人　徒士 20 人　足軽 22 人　兵糧方 1 人　同手付 3 人
別手廻 12 人　探索方 5 人　医師 1 人　早乗注進 1 人　飛脚足軽 2 人
二番手：持鎗奉行浅井隼馬以下 92 人
三番手：者頭深井八之丞以下 132 人は戦闘に間に合わず
全体指揮する将なし　従軍兵は十代や四・五十代　留守部隊的状況

7．戦闘状況

（1）初戦は高崎優勢
正面同士で戦端　「先陣の三勇士」
道幅 2 間の脇往還　藩士 VS 寄集め

（2）奇襲攻撃に高崎軍崩れる
天狗党は数度の実戦経験　三面奇襲戦法
中央　下仁田道岩下で正面衝突
右側面　味方を装った崖上から銃撃奇襲
左側面　西牧川から本陣里見邸を攻撃

（3）二番隊到着するも撤退
退却しながらの戦い　安道寺の戦い
浪士軍の信州への逃走を許す
討死者 27 人　引き揚げ途中絶命 2 人
処刑（切腹の形の斬首）7 人
合計 36 人戦死　白兵戦　6 時間の戦闘



下仁田戦役戦場略図

（4）下仁田戦闘後
下仁田→内山峠→中山道→和田峠で松本・諏訪両藩と合戦→中山道→関が原付近
常野州脱走の賊徒征討軍の総督が徳川慶喜　加賀藩に投降
敦賀での捕縛者 809 人（元藩士 35 人、武士級 52 人、農民 335 人、不明 241 人）
追討軍の手で 352 名処刑　水戸送還者も家族と共に市川派により斬殺
維新後は武田金次郎（耕雲斎の孫）一派が門閥派を斬殺　怨念の殺し合いが続く

8．幕命の下りた他藩の状況

○吉井藩　陣屋 1 万石　家門　藩主松平（鷹司）左兵衛督信発（のぶおき）
国論を攘夷に統一進言　日米修好通商条約締結に反対

天狗党　当藩役人へ戦う意思なし　　吉井藩役人　見守るだけ

○小幡藩　　陣屋２万石　譜代　藩主松平（奥平）摂津守忠恕（ただゆき）

藩士２名　吉井へ出向き「追討令あり通行見過ごせない」　幕府へ報告　協議中に通過された

○七日市藩　　陣屋１万石　外様　藩主前田丹後守利豁（としあきら）

藩領入口で用人横尾鬼角が出向き　　城下通過は困る　間道を案内

幕府へ報告文　「賊徒が脇道を通った」「多勢に無勢だが必死の覚悟で兵を配している」

出動し小幡藩と共に高崎藩と作戦会議に臨む　　出陣せず

高崎藩の主張　下仁田の地理に詳しい小幡・七日市両藩が先導　正面攻撃で一気に勝敗

○安中藩　　城持３万石　譜代　藩主板倉主計頭勝殷（かつまさ）

碓氷関所守衛が建前　　一之宮方面に出陣

○川越藩　　城持 17 万石　家門　松平（結城）大和守直克　　上州は飛地　　前橋陣屋

藩主松平直克　久留米藩有馬氏から養子　　６月まで幕府政治総裁職　　横浜鎖港を献策

幕府は天狗党騒乱鎮圧優先⇔直克は横浜鎖港先行　　天狗党追討に異議

将軍や水戸慶篤と意見対立　　政治総裁罷免　　前橋陣屋は出陣支度だけ　参陣せず

９．下仁田戦争の評価

（１）夜襲の是非

吉井に宿営　　地の利から夜襲の好機　　寡兵の兵法は奇兵

一番隊長と二番隊長意見合わず　　夜襲は善隣の好を失う　　武士道に反す

（２）戦略・戦術

戦略　　西上阻止には持久戦→三番隊・幕府追討軍・諸藩の援軍を待つべき

　　寡兵で多勢の敵　　正面遮断は多勢の策

戦術　　戦場予定地へ急行→陣地を整え→脇往還側面木陰から火力で攻撃→攪乱

（３）組織・武装

指揮　高崎藩：全軍の指揮官不在　　天狗党：大将武田耕雲斎、参謀山国兵部

兵器　高崎藩：山砲４門・和式三百匁砲２門　　火縄銃（有効射程距離 50m）

　　天狗党：山砲８門　　ゲベール銃（有効射程距離 200m）＋火縄銃

甲冑着用　　着用に手間取り出陣遅れ　　初めての武装で不慣れ

（４）歴史上の意義

結果　逃走許し戦死者　　藩主は幕閣の一員　　譜代藩の責任を貫く

江戸時代の最後にして最大の事件　　武士道魂